

# 2023年3月期 上半期 決算説明会 (2022年4月~2022年9月)

---

2022年11月14日

代表取締役社長 木村 有仁

 東洋合成工業株式会社

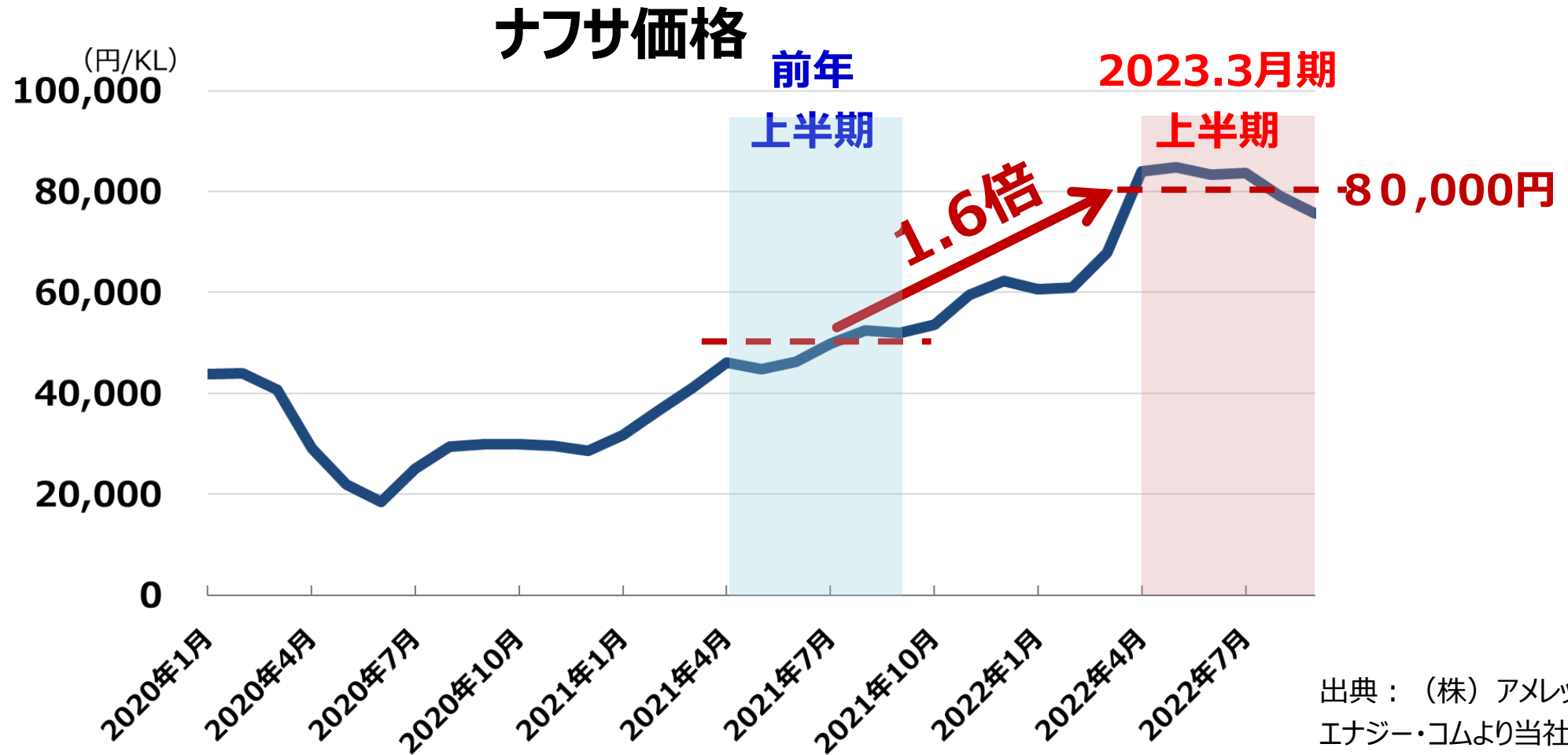
# 1. 2023年3月期 上半期 決算概要

## 2. 2023年3月期 業績予想

## 3. 今後の見通し

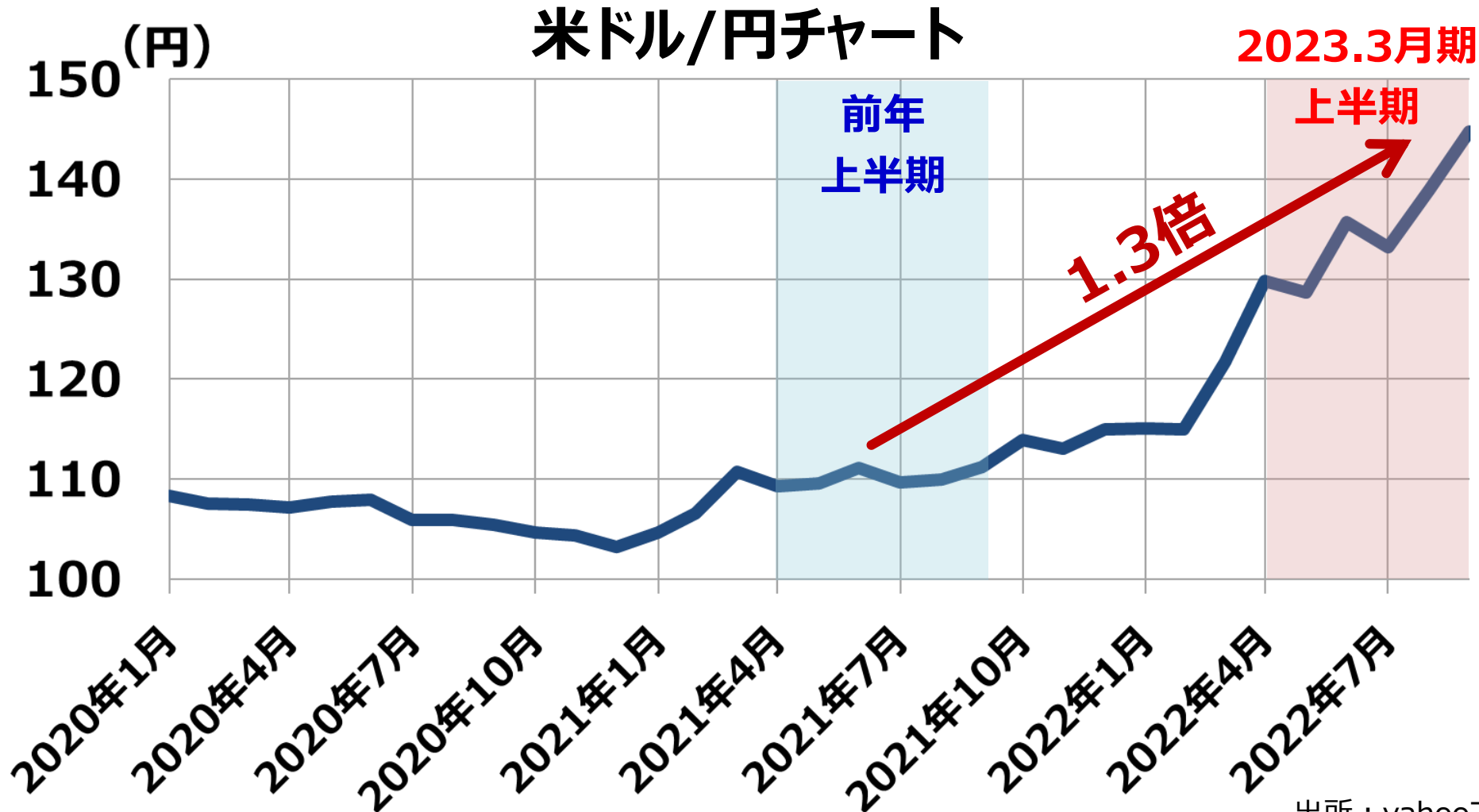
# 上半期のナフサ価格

- ✓ コロナから回復、中国でのロックダウン、ウクライナ侵攻などにより、世界的にインフレが進行、前年同期比1.6倍まで上昇。
- ✓ 欧米諸国はインフレ抑制に向け、金利引き上げ、資源価格高止まり、景気後退の懸念。



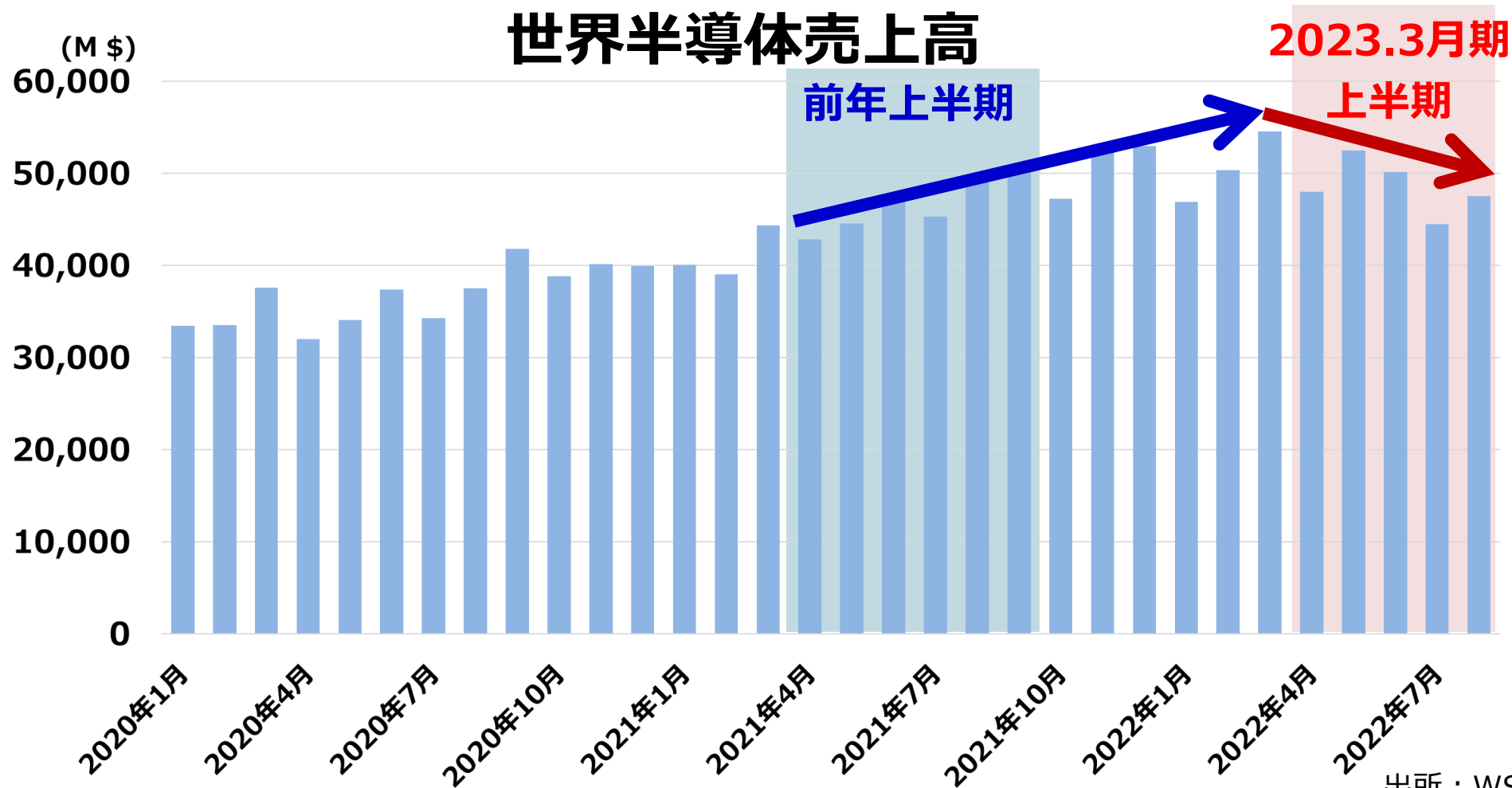
# 上半期のドル円相場

- ✓ インフレ抑制のため、欧米諸国を中心に政策金利引き上げ。
- ✓ 日米金利差から110円から145円（1.3倍）まで円安進行。



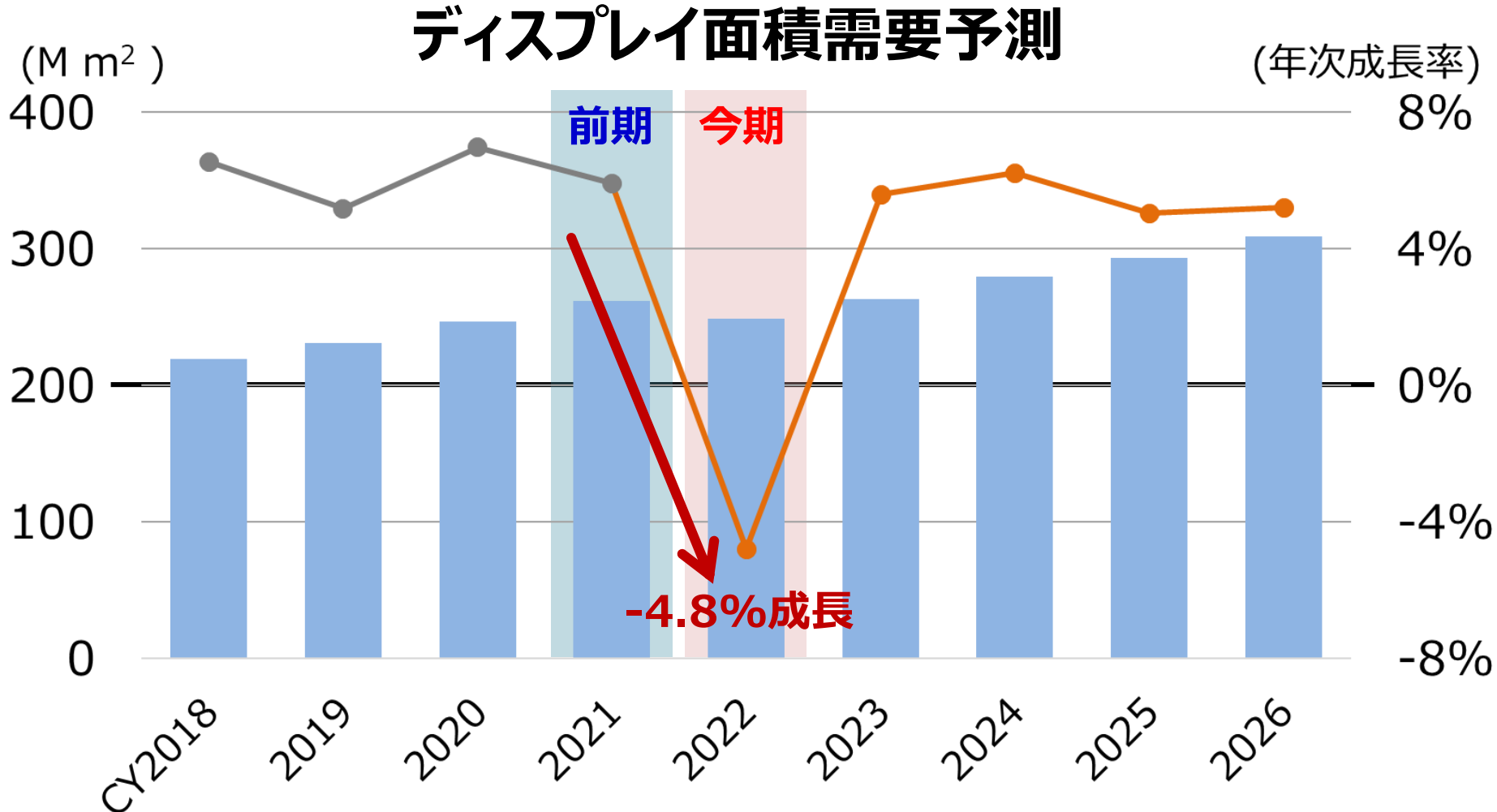
# 上半期の半導体市場

- ✓ コロナ特需一巡によりスマートフォン・PCなどの民生品の需要減退。
- ✓ ただし先端半導体は、DX・技術覇権争い・投資競争の加速を背景に需要拡大。
- ✓ 自動車向け半導体も不足が継続。



# ディスプレイ市場の状況

- ✓ PC・TVはコロナ特需は一巡、スマートフォンも景気減速により販売減。
- ✓ パネルは在庫調整および消費の減速により市況低迷。2023年以降の回復を見込む。



出所：DSCCより当社作成

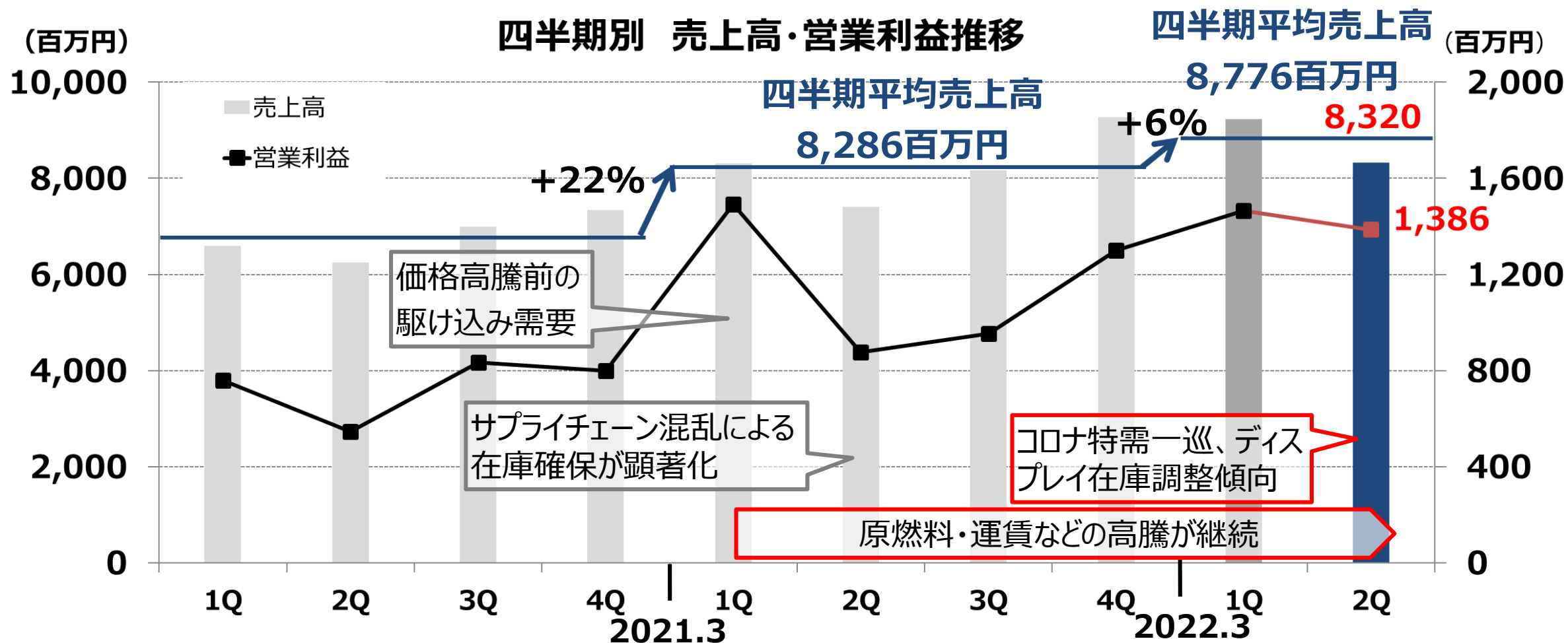
# 2023年3月期 上半期 業績概要

- ・売上高は、ディスプレイ需要減速のなか先端半導体材料の強い需要が継続し、前年比+12%
- ・営業利益は、先端領域増、原燃料・運賃高騰反映により28.5億円（+20%）の過去最高。
- ・経常利益は、為替差益も寄与し、前年比+39%の増益を達成。
- ・業績予想比では、電子材料の需要減退より減収となったものの、円安・先端品増加により+37%増益。

	2022.3月期 上半期実績 (百万円)	2023.3月期 上半期業績予想	2023.3月期 上半期実績	前年同期比		業績予想比	
				増減額	増減率	増減額	達成率
売上高	15,710	20,000	<b>17,553</b>	+1,843	+12%	△2,446	△12%
営業利益	2,369	2,450	<b>2,852</b>	+483	+20%	+402	+16%
経常利益	2,360	2,400	<b>3,278</b>	+918	+39%	+878	+37%
当期純利益	1,625	1,650	<b>2,247</b>	+622	+38%	+597	+36%
1株当たり四半期純利益 (円)	204	207	<b>283</b>				
1株当たり中間配当金 (円)	15	20	<b>20</b>				
期中平均為替レート	¥109.9/\$	¥125/\$	<b>¥133/\$</b>				

# 四半期別 売上高・営業利益推移

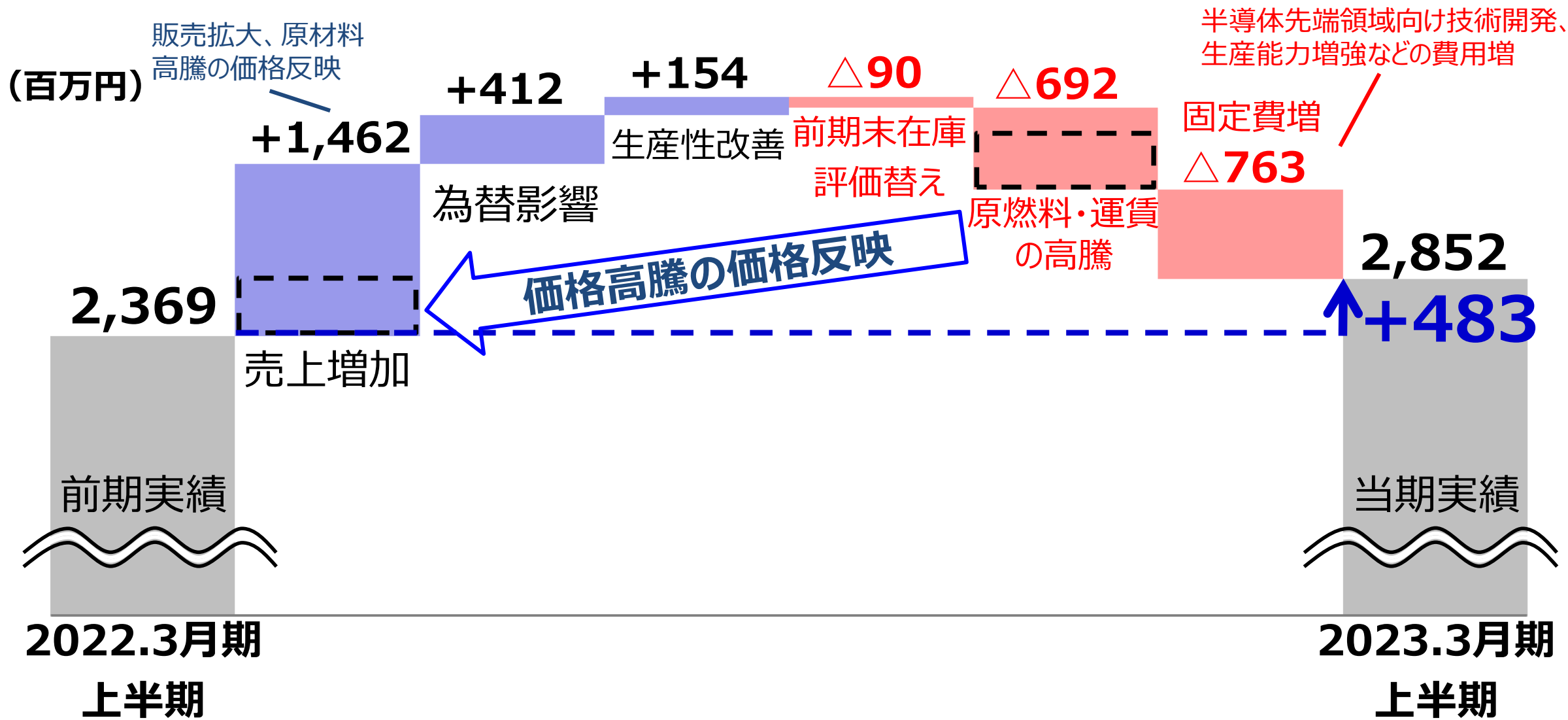
- ・ 四半期平均売上高は、前期から+6%成長。営業利益も平均14億円を維持。
- ・ 原燃料の高騰や固定費上昇、ディスプレイ調整の中、先端半導体材料の強い需要により、高水準の売上・利益を維持。



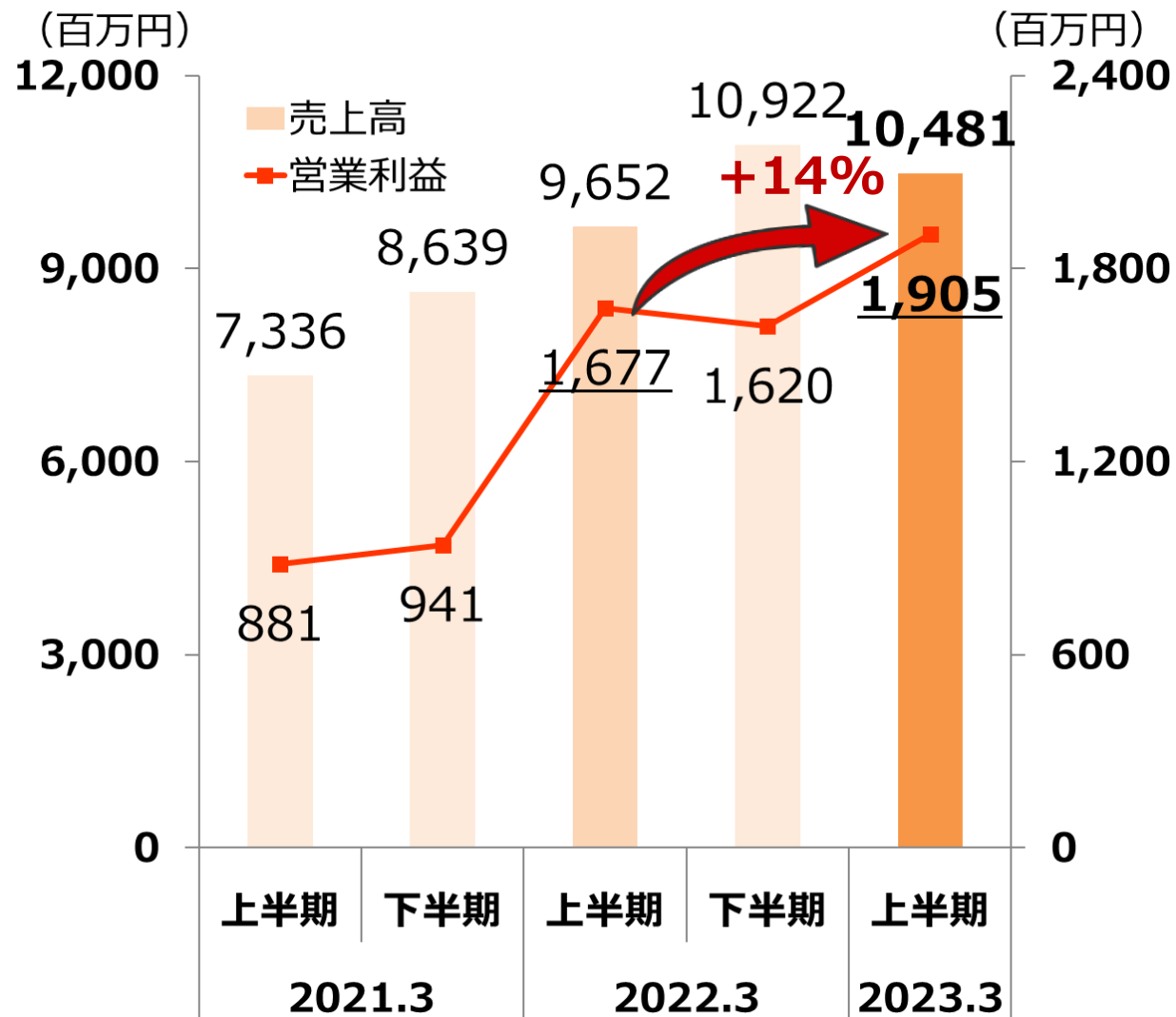


# 営業利益 前年同期比 増減要因

- 原燃料運賃の高騰、生産能力増強の費用増を、高付加価値品の増販と価格反映で吸収し、+20%の増益。



## 売上高・営業利益



**売上高：10,481百万円**

(前年同期比+828百万円、+9%)

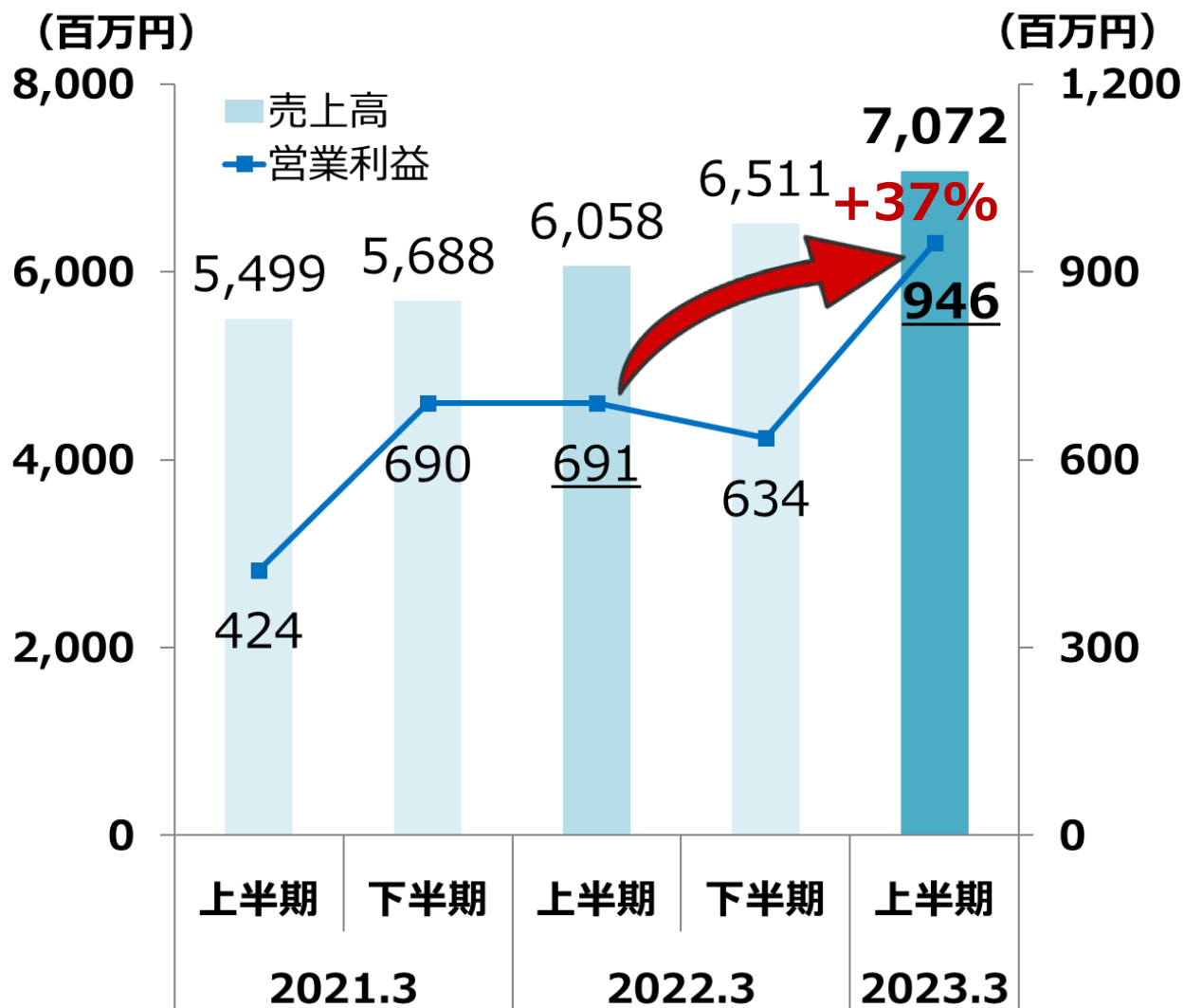
- ロジック半導体用途は強い需要が継続。
- メモリ・汎用半導体用途は堅調に推移。
- ディスプレイ向け感光材は需要減退。

**営業利益：1,905百万円**

(同+228百万円、+14%)

- 先端半導体向け材料の増産により費用増を吸収し、過去最高。
- 原燃料の高騰や技術開発、生産能力増強の費用増。

## 売上高・営業利益



**売上高：7,072百万円**

(前年同期比+1,014百万円、+17%)

- 半導体向け高純度溶剤は好調継続。
- その他電子材料向け溶剤、香料は景気減速により減少。
- ロジスティック事業は、自動車の減産などから溶剤荷動きが減少したが、タンク契約率は高水準を維持。
- 原材料高騰に伴う価格反映を実施。

**営業利益：946百万円**

(同+254百万円、+37%)

- 高付加価値品へのシフトにより過去最高。

- 売上総利益は、原燃料高、固定費増を高付加価値品などで吸収し8億円増、売上総利益率1.9pt良化し28%と高水準。営業利益は4.8億円増（+20%）
- 経常利益は、円安による為替差益（4.3億円）により、9.2億円増（+39%）を達成

(百万円)	2022.3月期 上半期	2023.3月期 上半期	増減額	増減率	
売上高	15,710	17,553	+1,843	+12%	
売上原価	11,577	12,597	+1,019	+9%	
売上総利益	4,133	4,956	+823	+20%	← 売上総利益率28.2% 1.9pt良化
販売管理費	1,764	2,103	+339	+19%	
営業利益	2,369	2,852	+483	+20%	
営業外収益	59	486	+426	+713%	← 為替差益 434百万円
営業外費用	68	59	△8	△13%	
経常利益	2,360	3,278	+918	+39%	← 経常利益率18.7% 3.7pt良化
特別損益	△12	△36	△23	-	
税引前四半期純利益	2,347	3,242	+895	+38%	
法人税等合計	721	994	+272	+38%	
四半期純利益	1,625	2,247	+622	+38%	

# 2023年3月期 上半期 貸借対照表

- ・ 売上債権はサイト短縮により減少。
- ・ 棚卸資産は一部の在庫レベル回復と原材料費高騰に伴う単価上昇により2,029百万円増加。
- ・ 株主資本は、純利益の増加により2,128百万円増加。
- ・ 自己資本比率も、上場来最高の38.1%（前期末比+3.8pt）。

(百万円)	2022.3月末	2022.9月末	増減額	(百万円)	2022.3月末	2022.9月末	増減額
<b>流動資産</b>	19,766	<b>21,007</b>	+1,241	<b>負債</b>	30,824	<b>29,589</b>	△1,235
現金預金	3,681	<b>3,732</b>	+51	仕入債務	5,010	<b>5,001</b>	△9
売上債権	7,402	<b>6,635</b>	△766	有利子負債	17,819	<b>18,236</b>	+417
棚卸資産	8,080	<b>10,109</b>	+2,029	その他	7,993	<b>6,351</b>	△1,642
その他	602	<b>530</b>	△72				
<b>固定資産</b>	27,119	<b>26,780</b>	△338	<b>純資産</b>	16,061	<b>18,199</b>	+2,137
有形固定資産	25,376	<b>25,090</b>	△285	株主資本	16,007	<b>18,136</b>	+2,128
無形固定資産	511	<b>544</b>	+33	評価・換算差額等	54	<b>63</b>	+8
投資・その他	1,231	<b>1,145</b>	△86				
<b>資産合計</b>	46,886	<b>47,788</b>	+902	<b>負債・純資産合計</b>	46,886	<b>47,788</b>	+902

- 営業CF 2,109百万円： 前期の利益急拡大による法人税増、在庫レベル回復により減少。
- 投資CF △2,396百万円： 大型投資の支払が一時的に減少。
- 財務CF 215百万円： 有利子負債増を抑制し、今後の設備投資余力を確保。

	2022.3月期 上半期	2023.3月期 上半期	増減額
(百万円)			
<b>営業活動によるCF</b>	4,479	<b>2,109</b>	△2,370
税引前当期純利益	2,347	<b>3,242</b>	+895
減価償却費	1,273	<b>1,374</b>	+101
売掛債権の増減額 (+は減少)	407	<b>766</b>	+359
棚卸資産の増減額 (+は減少)	△654	<b>△2,029</b>	△1,374
仕入債務の増減額 (+は増加)	933	<b>0</b>	△933
その他	172	<b>△1,245</b>	△1,417
<b>投資活動によるCF</b>	△3,195	<b>△2,396</b>	+798
フリー・キャッシュフロー	1,284	<b>△287</b>	△1,571
<b>財務活動によるCF</b>	△1,287	<b>215</b>	+1,503
現金及び現金同等物に係る換算差額	6	<b>123</b>	+116
現金及び現金同等物の増減	3	<b>51</b>	+47
現金及び現金同等物の期末残高	3,385	<b>3,320</b>	△65

**1. 2023年3月期 上半期 決算概要**

**2. 2023年3月期 業績予想**

**3. 今後の見通し**

# 下半期の事業環境

## ■ 世界経済

- 資源価格は高止まり、欧米諸国を中心の政策金利引き上げにより景気後退。
- IMFは2023年、ほぼすべての国で経済成長率が低下と予測。

## ■ 電子材料業界

- 半導体業界：全体は汎用半導体を中心に、2023年上半期にかけて減速、2024年以降に高成長に回帰。
- ロジックを中心とした先端半導体は、強い需要が続いていく見通し。
- ディ스플레이は年内在庫調整、年明け以降、緩やかに回復に向かうと考えております。

## ■ 香料業界

- 景気減速により需要減少リスクはあるものの、下半期は上半期同水準を見込む。



- ・ディスプレイおよびスマートフォン・PCの需要減退、景気後退影響を織り込み、売上高を修正。
- ・利益は、高付加価値品へのシフトなどにより、期初 業績予想を維持。
- ・営業利益 為替感応度：¥2,100万/\$・半期 ⇒ ¥900万/\$・半期（\$建て販売減少）

	期初	11月9日 修正後	増減額	増減率
	(百万円) 通期 業績予想	通期 業績予想		
売上高	40,000	<b>35,000</b>	△5,000	△13%
営業利益	5,150	<b>5,150</b>	—	—
経常利益	5,000	<b>5,000</b>	—	—
当期純利益	3,500	<b>3,500</b>	—	—
1株当たり当期純利益(円)	440	<b>440</b>	—	—
下期為替レート	¥125/\$	<b>¥145/\$</b>		

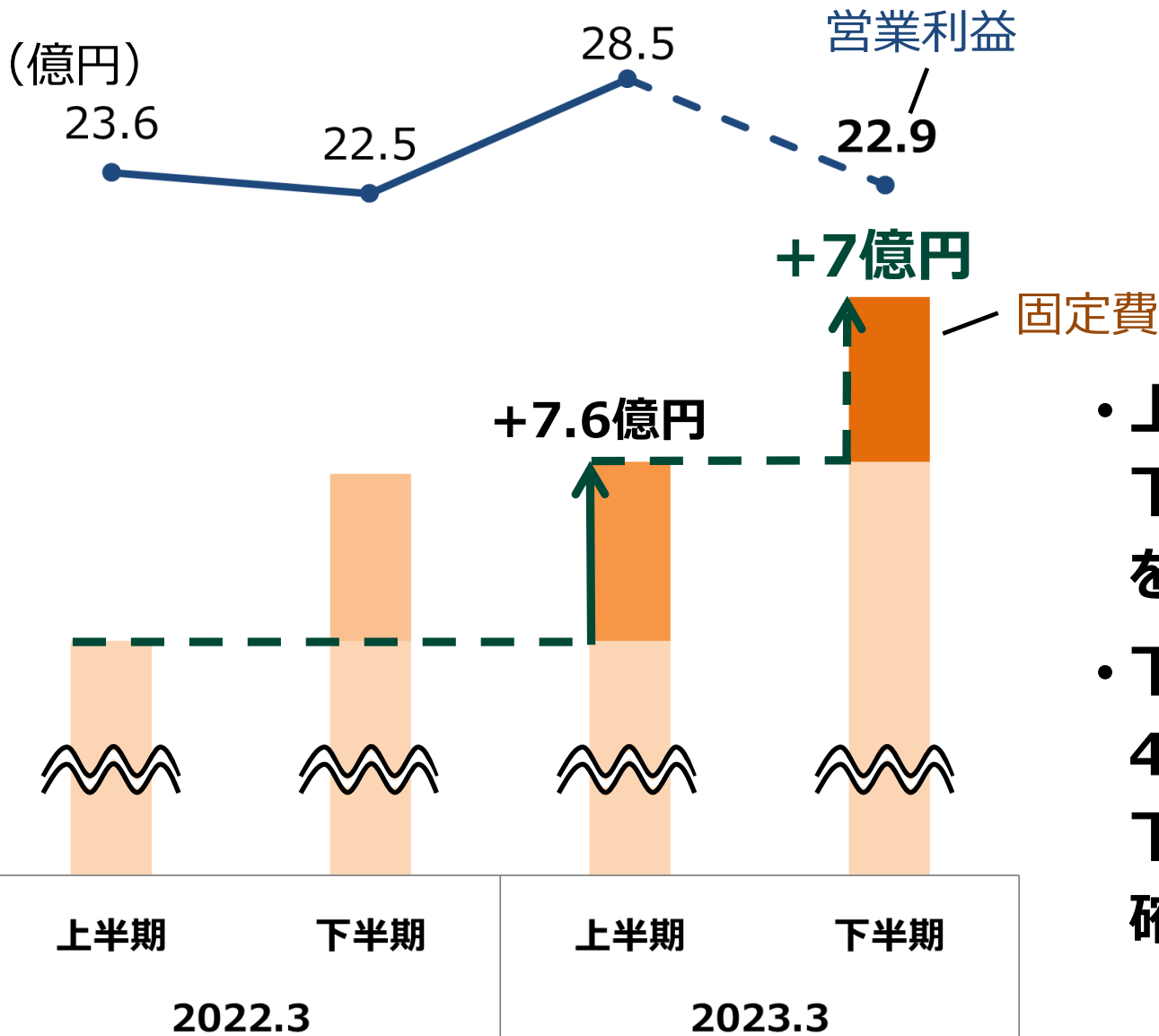
# 2023年3月期 業績予想と進捗状況

- 通期進捗率は、上半期終了時点で、売上高50%、営業利益は55%、経常利益（為替差益含）は66%。
- 各利益ともに業績予想値に対し、50%以上の進捗。

	通期業績予想 (修正後)	上半期実績	進捗率
(百万円)			
売上高	35,000	<b>17,553</b>	<b>50%</b>
営業利益	5,150	<b>2,852</b>	<b>55%</b>
経常利益	5,000	<b>3,278</b>	<b>66%</b>
当期（四半期）純利益	3,500	<b>2,247</b>	<b>64%</b>
1株当たり当期（四半期）純利益	440円	<b>283円</b>	

# 下半期の減益要因

## 固定費と営業利益額の推移

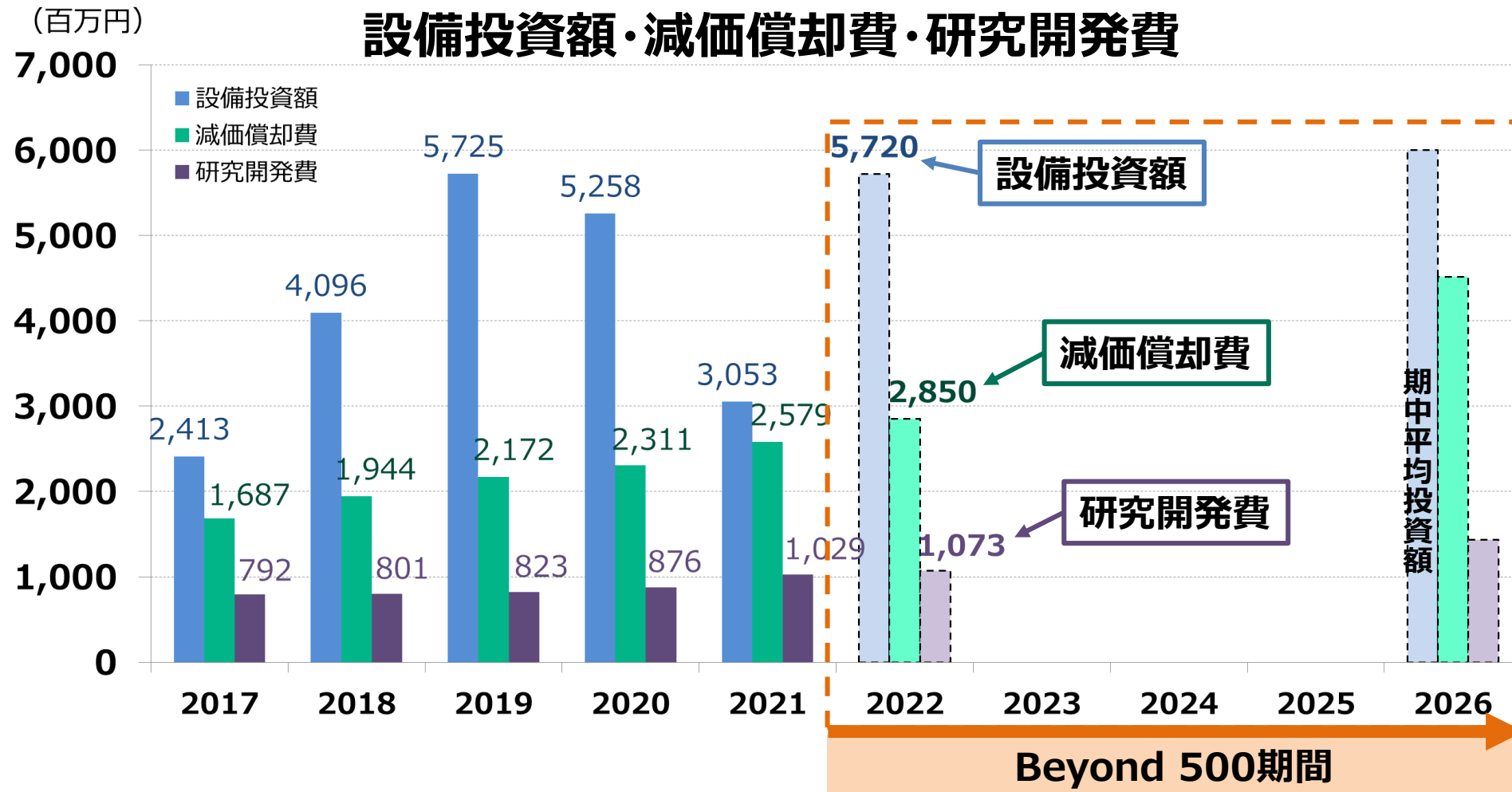


## Beyond500の達成に向け 計画通り生産能力増強を継続

- 上期固定費は前期比7.6億円の上昇、下半期は上半期に比べさらに約7億円の上昇を見込む。
- 下半期は上期比固定費増7億、上期為替益4億の反動や需要減退により、経常利益の低下を見込むが、通期では前年を超える利益を確保。

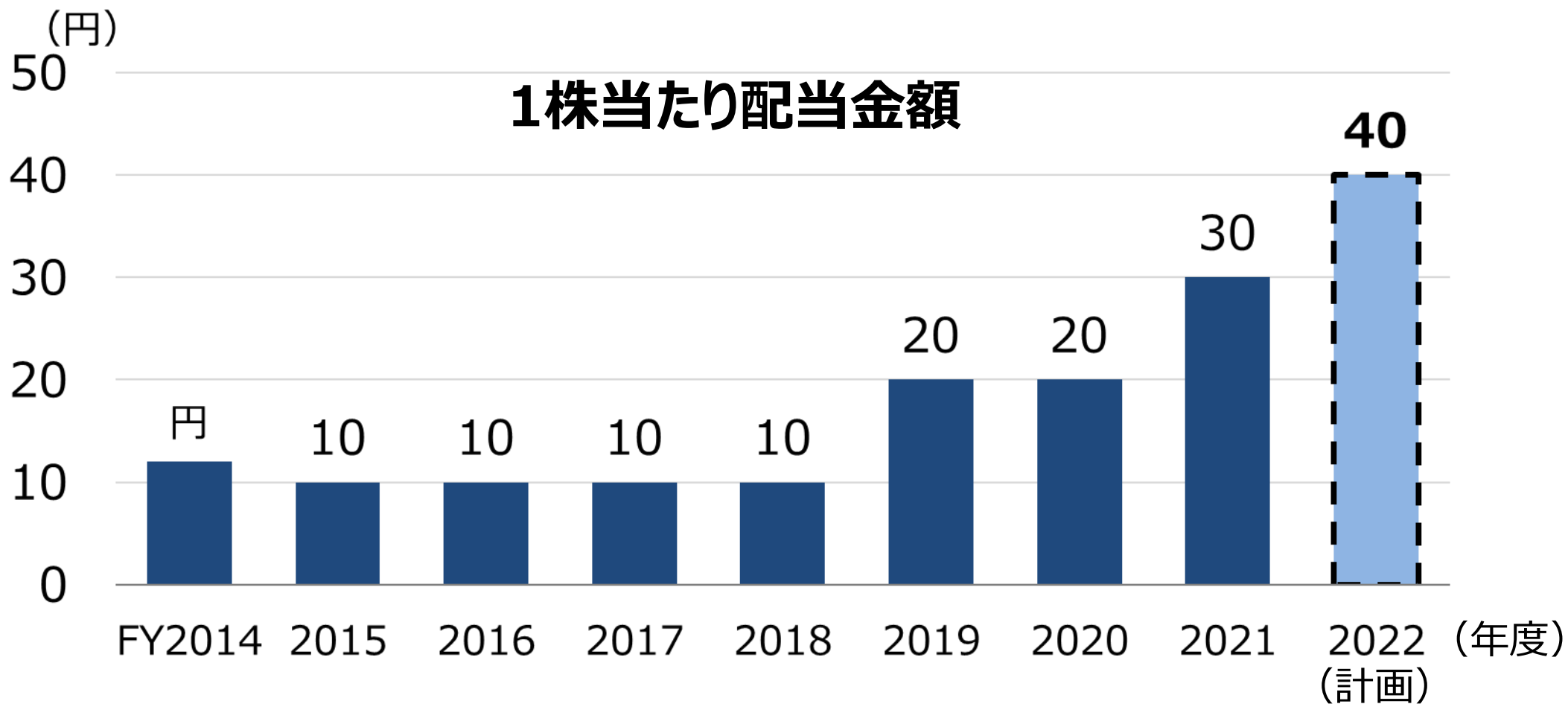
# 設備投資・減価償却・研究開発の計画

- 電子材料の需要拡大に対応するため、インフラ増強を実施中。
- 研究開発は、生産性や品質向上に向けた製造技術力（分析能力、工程開発、試作ライン）の強化を継続。
- 2022年度の設備投資は約57億円から変更なし。



# 株主還元

- ・ 安定配当を基本とするものの、成長性、財務バランス等を総合的に勘案し、決定。
- ・ 2022年度は、年間配当40円（中間20円）の計画から変更なし。



**1. 2023年3月期 上半期 決算概要**

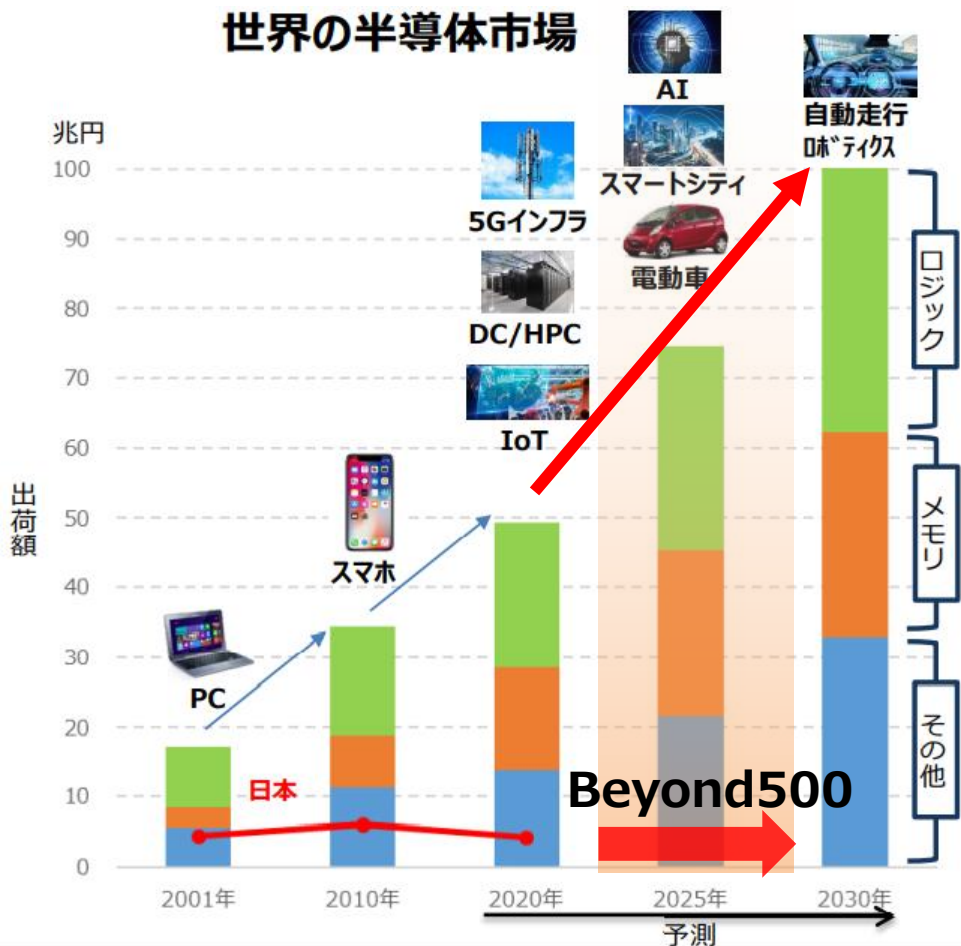
**2. 2023年3月期 業績予想**

**3. 今後の見通し**

# 2020年から2030年の半導体市場

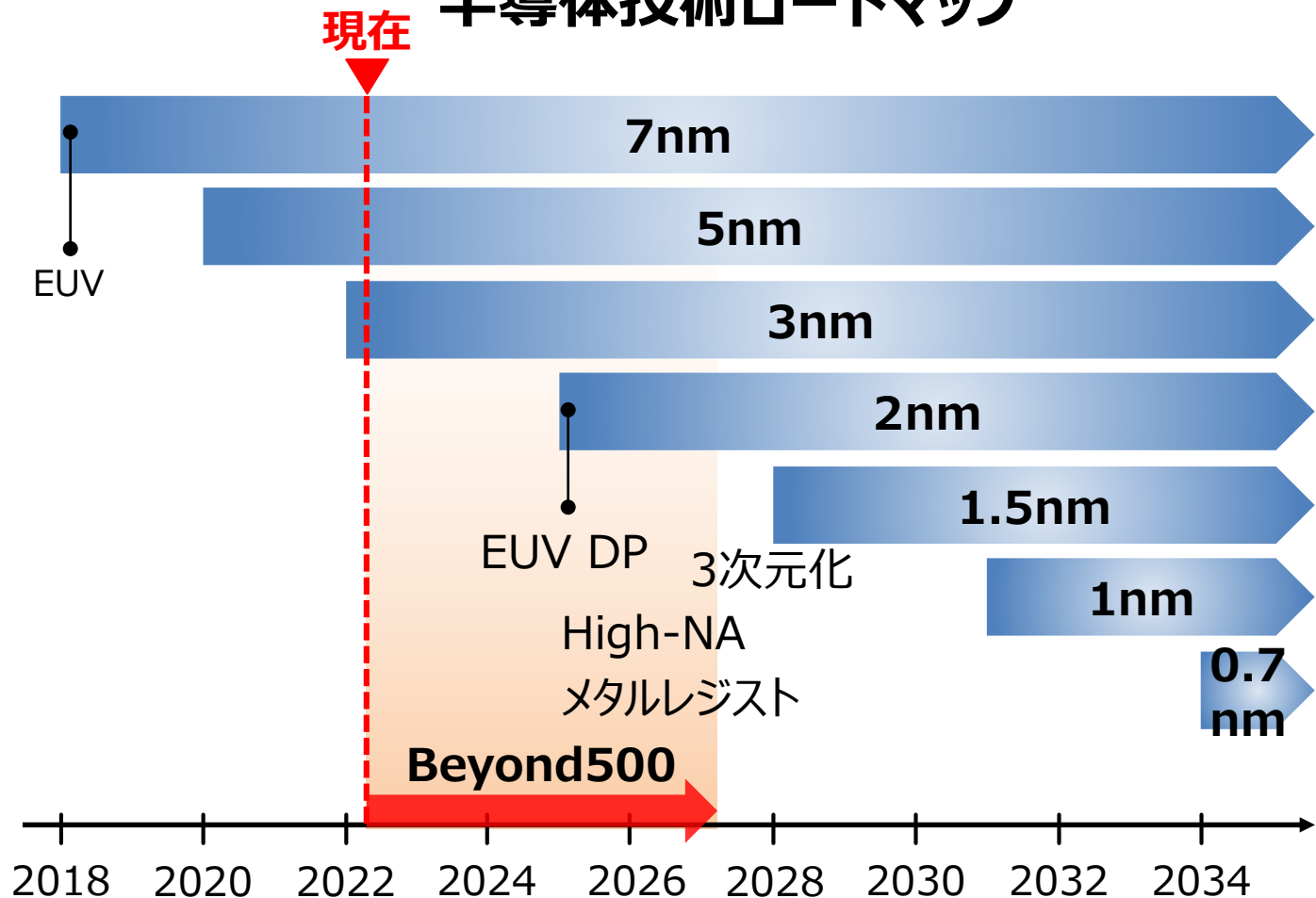
- 半導体が社会インフラの進化を支え、市場は2020年→2030年で倍増の見込み。その後も継続成長。
- 微細化の進展、次世代EUV/3次元化/メタルレジストなど新技術の普及に伴い、溶剤/感光材の製造技術をさらに進化させ、今後の業界の進化を支える。

### 世界の半導体市場



出所：経済産業省 半導体・デジタル産業戦略検討会議資料より抜粋

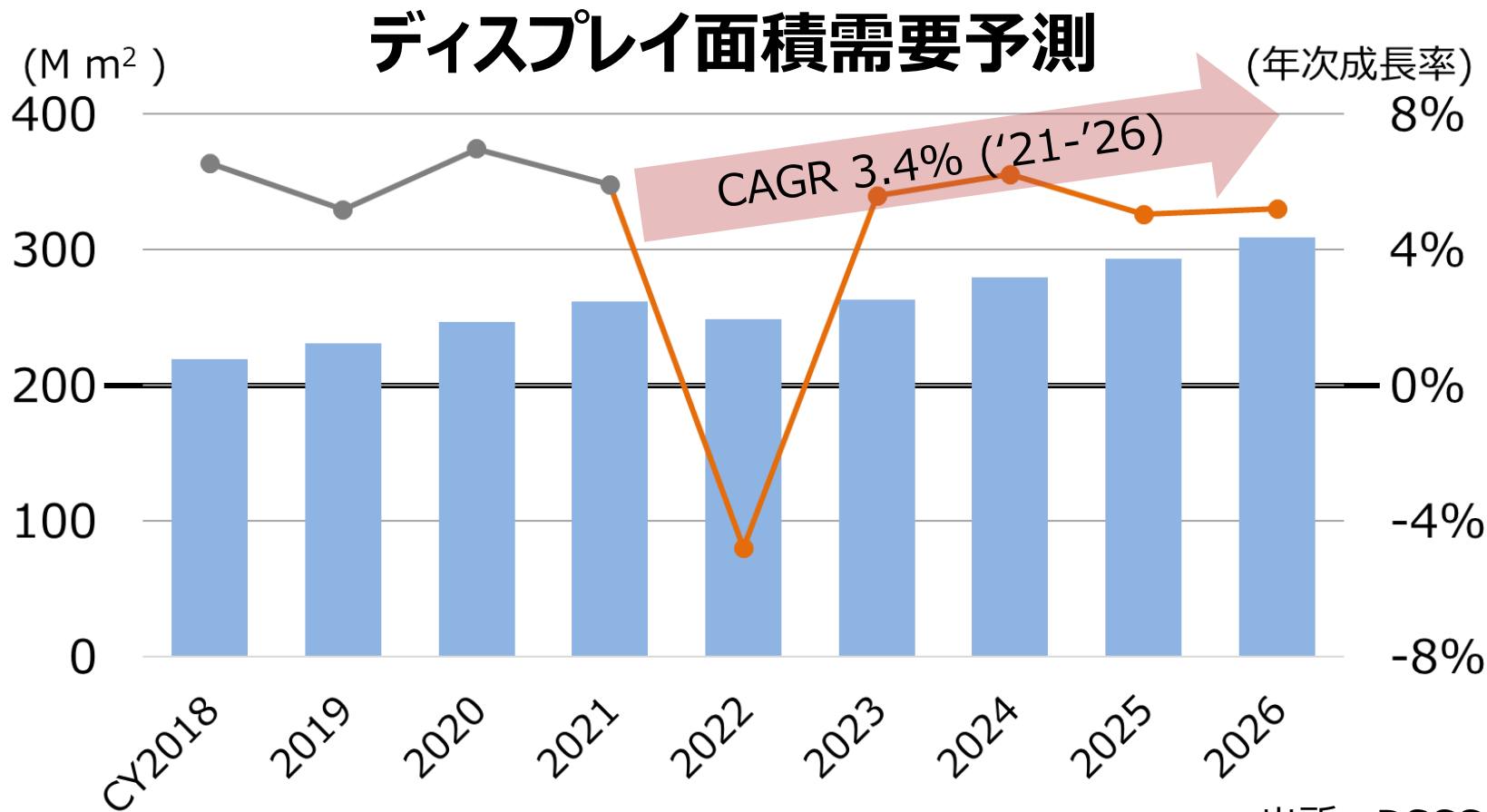
### 半導体技術ロードマップ



出所：IRDS2021より当社作成

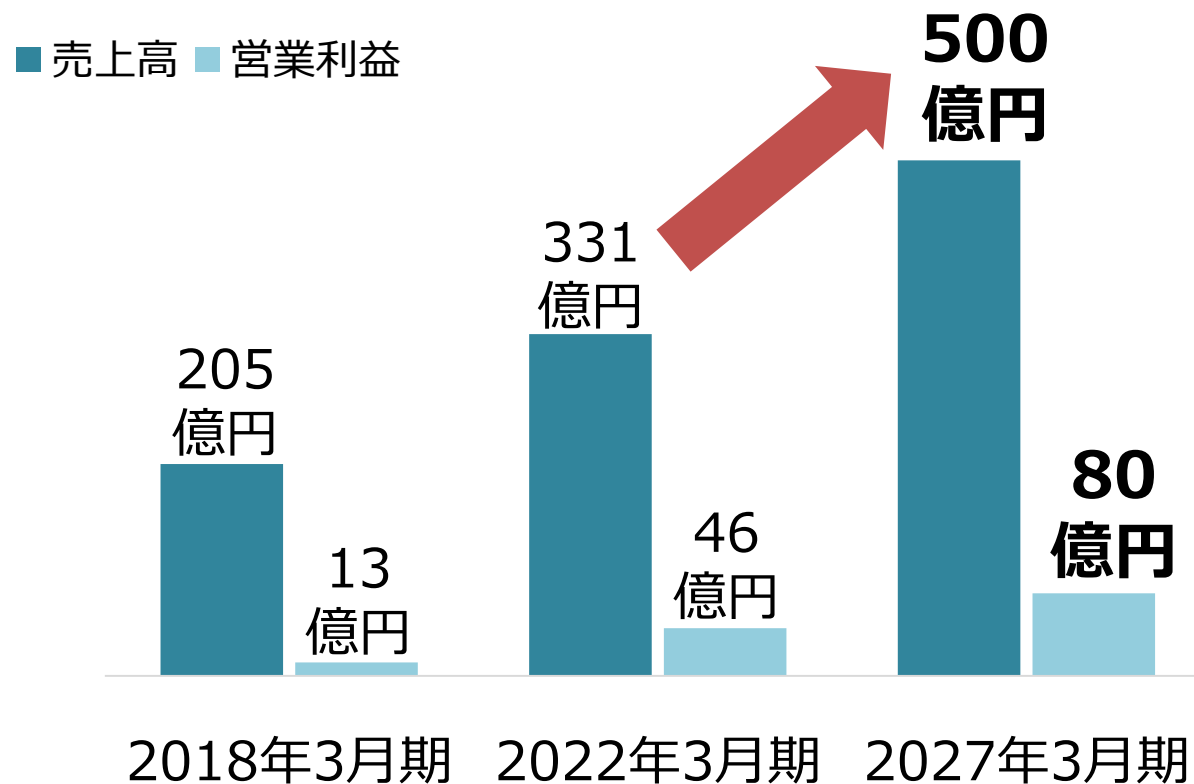
# ディスプレイ市場の見通し

- 2022年はコロナ特需の一巡、インフレ進行による消費減速から4.8%のマイナス成長だが、2023年にはディスプレイ在庫が正常化し、回復の見込み。
- 大型TV、スマートフォンの有機EL搭載機種種の増加、高精細品普及により今後も緩やかな成長が続く見通し。
- 感光材/高純度溶剤の需要は拡大見込み。



出所：DSCCより当社作成

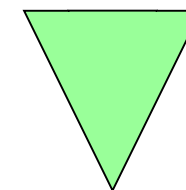




## 2022年3月期実績

売上高：331億円

営業利益：46億円（14%）



## 2027年3月期計画

売上高：500億円以上

営業利益：80億円以上（16%以上）

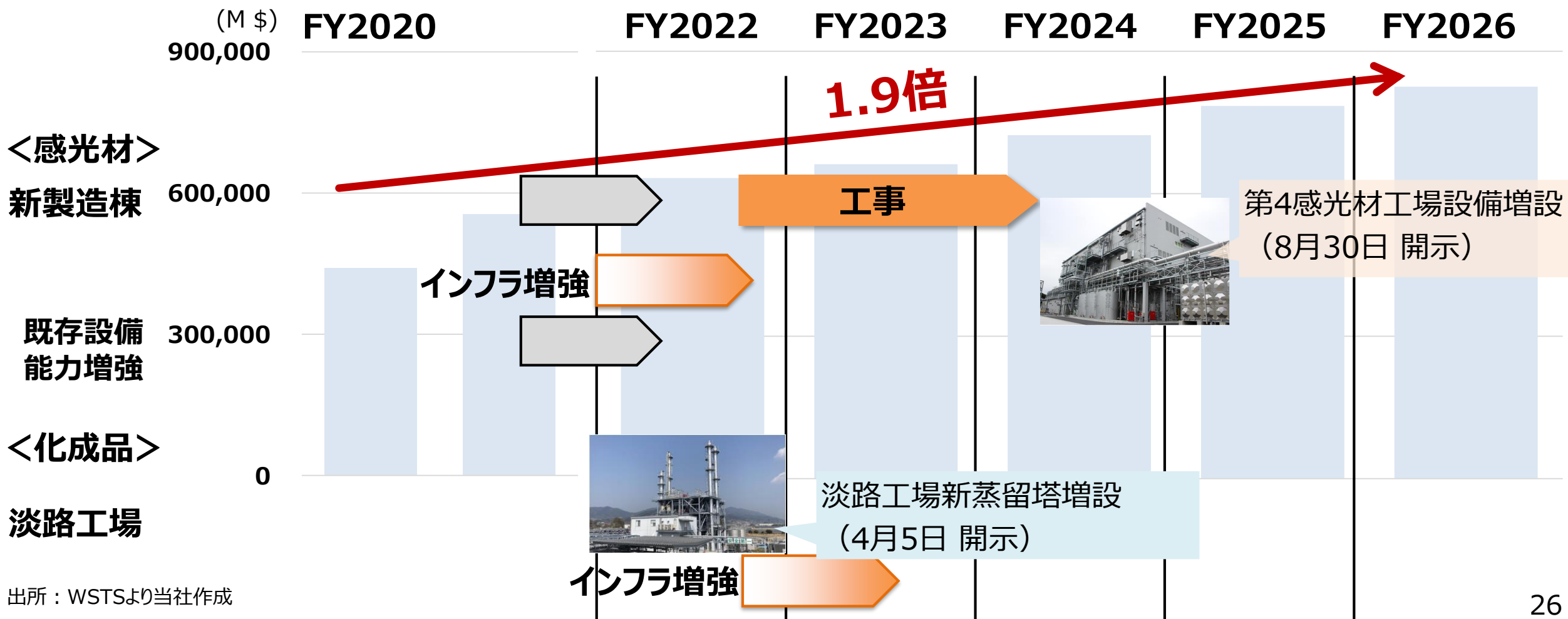
設備投資額：300億円  
（中期経営計画期間累計）

※為替前提：¥115/\$

営業利益率	2018年3月期	2022年3月期	2027年3月期
	6.3%	14.0%	16%以上

# 半導体需要見通しと生産能力増強

- 半導体市場は2023年の低成長から2024年以降、高成長へ回帰。
- 需要増への対応として、感光材製造設備増強を決定。生産能力を現状の1.8倍へ拡大。  
(2024年7月完成予定)



独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical

 東洋合成工業株式会社

(見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。